

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4571500513
法人名	有限会社 ウェルフェア
事業所名	グループホームかがやき
所在地	宮崎県宮崎市佐土原町下田島12372 (電話) 0985-73-0633 36-1220
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目10-1
訪問調査日	平成 19 年 10 月 25 日

## 【情報提供票より】(平成 19 年10 月10 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 11 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	12 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄 骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	光熱水道代	9,000円
敷 金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,100 円			

## (4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1	3 名	要介護2	5 名			
要介護3	6 名	要介護4	1 名			
要介護5	2 名	要支援2	1 名			
年齢	平均	87 歳	最低	81 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮元整形外科・日高胃腸科・山村内科・佐土原中央歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は街中にある単科の病院に併設しており、洒落た2階建の2階部分に2ユニットがある。広い回廊を利用して歩行訓練やラジオ体操でリハビリと体力保持に努めながら、また生活リハビリでは食事の後片付け、保存食づくり、モップ掃除、洗濯物たたみなどその人の力に合わせてスタッフと共に行っている。安心安全をモットーに支援が行われている。要支援2から要介護5までの方々が、穏やかに落ち着いてその人らしい過ごしかたが出来ている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しは、現状に即した定期的な見直しを実施され改善されている。又、鍵の問題は、建物の構造上のことはあるが、鍵をかけないケアについて前向きな検討を期待したい。制度変更にとまない、指定介護予防についても記載し、パンフレットの更新をしてほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が中心となって、今回の自己評価に取り組みされた。今後は、自己評価・外部評価について施設運営者の指導と確認の下、職場全体で取り組み、質の改善へ具体的な取組みをすすめてほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2か月に1回開催し、利用者の状況報告や外部評価についての話し合いを行っている。ただ会議に地域包括センターや外部の参加者が少なく内部中心の会議となっているので今後幅広い立場の人の参加を求め、活発な意見交換が出来るよう積極的な働きかけを行ってほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態を詳しく伝え、又、家族から意見、不満、苦情などを気軽に言える雰囲気作りに努めている。今後の取組みとして家族会の結成等を期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所最大の行事である夏祭りには周辺地域にもチラシを配り参加を依頼する。昨年は会場いっぱい参加者があり、事業所の紹介も行っている。また季節を選んで職員が同行して近辺を散歩し事業所周辺の住民と顔なじみになっている。今後、地域の老人会や一般住民との日常的な繋がり・連携をすすめてほしい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の多くは町内の住民で、地域密着型として地域に根ざしているが、理念としては以前の理念をそのまま運営の理念としている。	<input type="radio"/>	地域密着型サービスとなり、「入居者が地域の中で自分らしく暮らし続ける」の支援を目標にした当事業所独自の理念を作り、情報提供票や運営規定にもグループホームかがやきの理念として掲載してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの入口内側にわかり易い言葉で明示してある。管理者及職員は、毎月1回のミーティング時に理念を意識し再確認を行うようにしている。	<input type="radio"/>	今後の理念の見直しを全職員で取り組み、理念の共有を図ってほしい。新しい理念は職員だけでなく家族や訪問者にもわかり易く掲示してほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人全体の行事の夏祭りや、近辺の散歩時に地域の住民とのふれあいや会話がある。地域自治会には入っていないので、地域の老人会や敬老会の案内など地域活動への参加は行われていない。	<input type="radio"/>	グループホームかがやきの住民として自治会に入り、地域活動に参加したり、事業所内で介護予防や介護教室など開いて地域住民や老人会への勧誘などで事業所のアピールを工夫してほしい。また外来者が気軽に訪問し易いような案内板や表示をみんなで取り組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と一部の職員が中心になって自己評価に取り組んでいる。職場全体での取り組みの意義と必要性を理解した上で、要改善項目に対して具体的改善策に取り組もうとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回、定期的で開催されているが、出席者は3~4名で、事業所関係者が殆どで外部委員の参加は稀である。	<input type="radio"/>	地域の関係者に対して事業所への理解を得る取り組みや、支援事業所・行政関係者の参加を可能にするために、さらに工夫してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は、まだ取組まれていない。	○	市町村担当者や地域包括支援センターとの連携作りを図ってほしい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には入居者との場所を設けてお茶を出し、くつろげる様に心掛けて実行している。職員が入居者の状況や変化を伝え、介護計画書の見直しに関する要望などがあれば聞くと同時に苦情や不安・不満なども尋ねるように心掛けていることで家族からも喜ばれていると職員も確信している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に苦情や不満・不安の聞き取りをしたり、相談苦情の窓口や責任者の掲示も行っているが特に意見等は出されていない。家族会は結成されていない。		家族等が、意見や不満・苦情等を出しやすくするような工夫をしてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当時から職員も数名勤務している中で、13名の異動があつている。2～3ヶ月の勤務で異動した職員もいる。	○	馴染みの職員による支援が受けられるように、職員の異動の原因に対して、運営者・管理者・職員それぞれに分析し、安定した職場の中でよりよい介護支援が楽しく出来るように事業所全体で取り組んでほしい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修のマニュアルがあり、新人の指導と育成に前向きな姿勢を持っているが、担当やルール明確化と共有が出来ていない。職員数に余裕がない為、種々の研修を受ける機会は少ないが、認知症の研修が勤務の中で予定されている。	○	毎月のミーティングの後にミニ研修をするなど事業所内・外の研修の機会をふやしてほしい。受講者は必ず復命、回覧にて知識の共有とレベルアップを職員全員でおこなってほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状では同業者との交流はなく、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動は行われていない。	○	ネットワークづくりや勉強会、相互訪問活動の準備過程の交流こそが事業所間・職員間の情報交換になり、地域連携から地域密着型のサービスに発展していくことに期待して是非前向きに検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談者に対しては事前見学のみで、デイサービスやお泊りなどのお試しサービスは行っていない。入居後に家族面会や外出の回数を調整してもらいながら徐々にグループホームに馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食を通して入居者とのいい関係を作っている。四季を通しての保存食つくりの時など、入居者の経験や技術を教わりながら共に作っている。入居者の経験や技術を尊重することで満足感や喜怒哀楽を共有している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者各人のケアプランやアセスメントを通して入居者本人の希望や意向に沿っているか、日々の介護支援のなかで把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画のモニタリングは受け持ち職員が行っているが、作成時は利用者本人や家族からの要望や関係職員の意見も検討しながら介護計画作成担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態変動は少ないが、常に急激な状態変化を予測しながら介護支援を行っている。日々の記録から現状把握に努めることで、急変時の新たな介護計画が作成出来るようにしている。また急激な状態変化に対して、併設病院とも常に連携を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の1階でデイサービスを行っているが、多機能的な利用の要望も現在のところは無い。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人や家族の要望や希望に添っている。入居前からのかかりつけ医への受診は家族同伴で、併設病院への受診は事業所の職員が受診の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応については、併設病院があることから家族の安心感の表明も強く方針の共有が可能である。過去に終末期のケアを経験した事もあり、職員も入居の継続に理解をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する記録物などの管理や持ち出し禁止の取り決めを職員一同周知して守っている。また入居者のプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応にも注意するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課は一応決めてあるが、入居者の自己決定を尊重し優先するように心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一時は入居者と職員が同じものを一緒に食べながら見守りや介助をしていたが、現在は、入居者と職員と一緒に食事を摂る体制はなく、職員は、食事介助と誤嚥防止に努めている。食事介助者は一部で、見守りや声かけで食事はほぼ自立されている。食事前後の準備や後片付けなど入居者と共に日頃行っている。	○	入居者と職員がともに食事を取ることを中止した原因を運営者・管理者・職員が今一度検討して頂きたい。その上で出来ればグループホームに望まれる食事の情景に戻るよう努力される事を期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を一応決めてあり、要望や拒否が無い場合は3回/週の浴槽での入浴を提供している。自立度や身体状況に応じて1～2人で入浴介助をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの身体機能や趣味、希望に合わせて保存食作りや菜園の収穫作業、食事の後片付け、モップ掃除、洗濯物たたみなどで、役割や気晴らしを行い、職員は見守り声かけで支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外散歩に適切な時期には、入居者2～3人と職員と一緒に事業所近辺の散歩に出掛けているが、日常的には回数は少ない。1～2回/年程度は事業所全員でレクリエーションに出かける。基本的に入居者本人に金銭を渡してなく、希望の買い物目的などでの外出支援はない。	○	戸外への外出希望は、入居者本人からは中々出にくいと思うので、希望を上手に聞きだして短時間の外出でも日課とすることを検討してほしい。構造上の心配から常時入口が閉鎖状態なので、気晴らしのためにも必要では是非検討してほしい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の出入口が即、階段という構造から、転倒転落の危険が予測され、家族にも了解を得て施錠をしている。訪問者もインターホンで連絡し職員の開錠後入る。前回からの改善事項であるが、具体策の無いままになっている。	○	鍵を掛けていることの弊害について運営者、管理者、職員が検討の上、今一步理解を進めて鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設病院の病棟やデイケアと合同で避難訓練を1回/年行っている。利用者を階段やエレベーターを使用しての非難訓練や近隣住民やボランティアの参加を得ての訓練はまだ行われていない。	○	避難訓練について種々の災害を想定したマニュアルを作成してほしい。訓練には地域の消防員、警察や運営推進会議のメンバー、近隣住民やボランティアの協力を極力お願いして是非とも地域密着型のグループホームとして定着させてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じて食事や水分の摂取量がきちんと記録されている。1日量を決めて飲水の支援も行っているが目標に達しない場合、全身状態の把握や必要に応じて併設病院の医師の診察を依頼している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の共用空間は居間兼食堂、台所、浴室、トイレなどの配置もよく広さも適当である。トイレは1ユニットに3箇所もある。廊下は2ユニットをつなぐ回廊で壁面には絵画や手作りの装飾品が掲示され季節感がある。2階の為居間からの眺めや採光もよい。テレビなどの音量も程よく調節されており静かな環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの整理タンスや鏡台、ソファなどの持込で家庭的で落ち着いた違和感のない居室になっている。また家族や思い出の写真など飾られた居室もある。居室からの眺めは街中住宅地の為、生活感がある。		